



# 第 126 回日本小児科学会報告書

2023.4 月 東京 (※は平井のコメントです。)

**原因不明の小児急性肝炎**: 英国からの報告が最初。発熱・黄疸などの症状が出現し、AST・ALT（肝臓から出てくる酵素）が 500 以上になる。アデノウイルスと関連がありそう。2022.3 月～6 月がヨーロッパでのピーク。基礎疾患は関係なさそう。コロナが落ち着いているときの方が、患者数は多い模様。ウイルス血症をおこしていると考えられる。



**新型コロナウイルス感染症の治療薬**: 様々の薬が登場したが、現在ではレムデシベルが有効の模様。デルタ株までは、基礎疾患のある方と、肥満児が重症化のリスクが高かった。小児ではリスクは低かった。とはいえ、重症度はインフルエンザと同様。

**コロナとマスク**: ここ 2 年間絶え間なくマスクを着けていたのは、日本だけ。乳幼児にとって、言語獲得のためには、口元をみるのが必須。マスク越しにしか顔を見られないことで、言葉の発達が遅れる幼児が増えている。

日本人は目元重視。欧米人は口元重視。(※学会会場では、外国人でマスクをつけている人は皆無でした。)



**LGBTQ+**: 日本でも認識されるようになってきたが、海外と比べると遅れている。性別の記載欄に男・女・その他とあることが望ましい。

**川崎病と新型コロナ**: 川崎病の発生頻度は年々増加傾向であったが、2020 に新型コロナが流行してからは、増加に歯止めがかかっている。



**こどもの Long COVID**: コロナに感染後少なくとも 2 か月以上、通常は 3 ヶ月経過した時点でも持続するコロナでは説明のつかない症状。10 代を中心に、味覚嗅覚障害、発熱、倦怠感、咳など。診断は難しい。

**新型コロナワクチンによる接種ストレス関連反応**: 他のワクチンと同様におこる。  
**新型コロナと摂食障害**: 一斉休校、給食の黙食、マスク生活、学校行事の制限などで心身症が増え、摂食障害も増えた。



平井こどもクリニック